

2006 年度関東地区学生会東工大企画議事録

2006/07/29

題目：「化学工学に関する相互理解」

趣旨：現在、化学工学に携わっている研究者は多くいるが、その求める本質に対して議論が行われている。その一つの要因として、化学工学は他の工学とは異なり、複雑化に富んだ学問であるからということができよう。

本企画では、現在化学工学を学ぶ学生の観点から、化学工学に対する意義・漠然としての意味を理解し、相互的に価値観を共有し啓発することを目的とした。将来社会に出るにあたり、自分のバックグラウンドである化学工学がどのようなスタンスであるのかという理解を深めようというものであり、自分にとって化学工学とは何か、どう利用しているか、将来どう役立てていくかを改めて考えて頂き、自分の中で整理して頂きたいと考えた。

そのために、事前に学生の立場から見た化学工学の知見をアンケートに基づいて集計することにより、これを基にディスカッションを行った。

アンケート協力校並びに参加人数は別紙の通りである。

ディスカッションは、5人ないし6人一組のグループで行った。その後、各グループから発表者がまとめて発表するという形式を取った。

議題は、『化学工学とは何か？ 化学工学と他の分野との差別化は何か？』及び、『化学工学（学問として、技術として）は将来どの方向性に向かうべきか？』を取り上げ、それぞれ30分間ずつ行った。これらの結果を別紙に添付する。これらの結果は本ディスカッションで一定の統一した回答を得るためのものではなく、学生個人が考える「化学工学」はそれぞれ正しいという考えに基づいたものであった。これらの意見交換を通して、「化学工学」を考える機会を提供し、また個人によって「化学工学」に対する定義が異なることを相互的に理解し合えたら幸いである。

ここで、一つの提案として、我々学生ではなく、「化学工学」を教える立場にある教員に対しても同じ質問を投げかけたいと感じた。おそらく、教員間でも「化学工学」に対する立場や考え方は異なるであろうし、我々学生はそれを期待するだろう。

(東京工業大学 理工学研究科 化学工学専攻 高橋誠)

15:00～17:00 ディスカッション

17:30～19:30 懇親会（庄や大岡山店）

紙コップ代：¥1,196-

懇親会代：¥94,080-

ディスカッション

慶應義塾大学：4名

千葉工業大学：2名

日本大学：7名

東京工業大学：20名

早稲田大学：1名

東京工業大学大岡山キャンパス南1号館209号室